琉球大学学術リポジトリ

米軍兵士と沖縄人の観察による沖縄人の民族的人格特性についての研究

メタデータ	言語: Japanese
	出版者: 琉球大学教育学部
	公開日: 2011-04-20
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 赤嶺, 利男, Akamine, Toshio
	メールアドレス:
	所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/19147

米軍兵士と沖縄人の観察による沖縄人の民族的人格特性についての研究

講師　赤　嶺　利　男

研究の動機

グループ　モラールが集団の活動能率に大きな影響をもたらすものであることは論ずるまでもないが，同様に国家や民族のモラールはその共同福祉発展にとつて欠くべからざる要因となる。われわれ沖縄人は第二次世界大戦の惨禍以来十余年にわたつて政治，経済，文化等のあらゆる方面に復興の努力を払つて来たのであるが，終戦と同時に本土との凡ゆる関係を遮断され，而も完全に焼土と化した郷土の復興は外軍政下のこととて色々な制約を受けてきたのである。加うるに全島各地に巨大な米軍基地が散在し，沖縄人は文化的に非常に異なつた米軍兵士と直接間接の接触を保ちながら生活して行かねばならなくなつたのである。かくの如き日常生活各面の困難を打開し，復興の歩みを続ける沖縄人にとつて，その協同的問題解決過程を妨げている大きな障害の一つに沖縄人特有の劣等感があると言われる。多くの沖縄人は我れ我れの劣等感は戦前から続いてきたものであり，特に廃藩置県後の沖縄人の政治的経済的地位は他府県人のそれと較べて極めて低かつたために，これが長く尾を引いて歴史的所産として沖縄人の民族的劣性意識を形成したものであると説明している。事実，沖縄人に強い劣等感があるとするならば，そしてその劣等感が沖縄人一般に普遍的のものであるとするならば，沖縄人の民族的人格構造の好ましからざる一部として慎重な検討を必要とするのではなかろうか。さらにこの劣等感は沖縄人に実際に存在する何らかの共通的欠点又は弱点に基くものであるのか。これは沖縄の民族集団的自我意識がどの程度客観的に妥当するかの問題であり，自己の所属する民族集団に対する否定的偏見の有無の検討を必要とするのである。「沖縄人」とは我れ我れが寧生得的に具有する身分であり，自由意志に基いて取得し，若くは廃棄し得るものではない。故に沖縄人が共通の民族的劣等感を抱いているとすれば，自らが所属する集団に対して，不信と軽蔑を意識しながらも，尚且つその忌わしき集団の成員として所属しつづけなければならないという葛藤が生ずるであろう。結果的には単に個人的精神衛生の問題としてのみならず，集団としての内部部的結合が弱まり，集団生活の規律が失わた，集団生産能率は著しく低下することになろう。現在の沖縄はあらゆる面に集団全体の協同的努力を要する問題が山積みされている状態があるが故に，この方面の研究が必要であると思われた。更に全島が基地化している沖縄において過去十年間における米国兵士と沖縄人相互間の関係は，この沖縄人の民族的自我意識に何らかの影響を加えたであろうことは疑う余地がない。従つてこの研究によつて米軍兵士の意識している沖縄人の民族的人格諸特性と沖縄人の民族的自我意識を比較することによつて沖縄人について顕著の特性は如何なるものであるか，又沖縄人が己れ自身について抱いている固定観念の形式を調べることにした。したがつてこの調査は米軍

兵士の沖縄人観と沖縄人自身の自我意識の比較検討による。沖縄人の人格構造の一片を探るための一つの些やかな試みなのである。

I　予備テスト

1　調査方法

予備テストでは，アメリカ軍兵士によつて外部から観察された沖縄人についての顕著な人格的特性，アメリカ軍兵士の年令，出身地域，沖縄滞在期間，修学年数，職業的背景，沖縄人との接触度などを調査検討することなどによつて本テストの調査方法や調査内容，質問形式等を決定する目的で行われた。

１９５６年２月16日及び17日の両日にわたり，那覇市在の米陸軍輸送部隊の下士官兵士167名に対して 別表(1)の如き質問紙を用いてテストした。この予備テストに取り上げられた人格特性は主として Ency clopedia of Educational Research に挙げられている人格特性群の中から言語による意志の流通が困難な異なつた民族集団間において比較的に観察されやすい外面的に表出されている人格性を選んだもので，質問紙の記載順序は次の通りである。

1 Friendly and Social　友好的で社交的
2 Even - Tempered　温和（感情にむらがない）
3 Suspicious in dealing wlth others　他人に対して疑い深い
4 Feartul of what might happen to them　何か起りはせぬかと不安
5 Emotionally tough　情緒的に強靱
6 Overactive in daily living　日常生活で活動しすぎる。
7 Stubborn　剛情，頑固
8 Uncooperative　非協力的
9 Trustful of others　他人を信用する。
10 Intelllgent　聰明
11 Impatient　短気
12 Careless on the job　仕事で不注意
13 Unreaiistic about their own life　人生について非現実的な考え方
14 Fearless of what might possibly hurt them.　向う見ず
15 Patient　忍耐強い
16 Look worried and unhappy　心配で不愉快そう
17 Usuaily honest　大低正直
18 Industrious　勤勉
19 Sensitive　敏感
20 Look happy most ot the lime　大抵の場合幸福そう
21 Cooperative　協力的
22 Often immoral　しばしば非道徳的に振舞う
23 Coutteous　礼儀正しい
24 Affectionate　人情深い

25 Cold - hearted 冷淡
26 Cautious and never take chances 用心深く決して危険を犯さない
27 Inclined to be introvert 内向的
28 Bold in their relation with others 対人関係で大胆
29 Carefree のんき
30 Talkative おしやべり
31 Flexible with their opinions 柔軟性のある意見
32 Domineering and bossy 押し
33 Sluggish in daily living 日常生活で動作が緩慢
34 Adventurous 冒険好き
35 Uupredlctable 行動を予測できない。
36 Rude 粗野
37 Careful in doing things 物事を注意深く行う
38 Criticale of others 他人に対して批判的
39 reliable 信頼できる
40 submissive 服従的
41 rather hot-tempered 癇癪もち
42 Unreliable 信頼できない
43 Dishonest 不正直
44 Sympathetic 同性的
45 Cunning 奸智にたけた
46 Inclined to be extroverts 外向的
47 Act impulsively 衝動的に行動する
48 Realistic about thelr life 人生について現実的な考え方
49 Withdrawn and timid 引込み思案で臆病
50 Ethical in their behaviors 倫理的な行動
51 Shy 恥かしがり
52 Lazy 怠惰
53 Mentally duli 愚鈍

別　　表 (1)　　(原文は英語)

沖 縄 人 格 持 性 調 査

琉球大学，心理学研究室

年令 _____　　出身地 _____

階級 _____　　民間職業 _____

沖縄に来てからどの位なりますか。 _____

何年間学校教育を受けましたか。 _____

個人的に知つている沖縄人がいますか。 _____

もし知つているなら何人位知つていますか。 _____

注　意

この質問紙は男女を問わず，沖縄人一般の人格がアメリカ人の眼にどう映つているかを調べようとするものです。これは知能検査ではなく従つて答が正しいとか誤まつているなどと言う事はありません。あなたが直接間接に得た沖縄人一般について答えて下さい。ある特定の沖縄人に限らないように注意して下さいあなたが思つた通りをそのまま正直に答えていただければ，我々も典型的な沖縄人像を正しく理解できるのです。

答え方

問題を読んで，沖縄人についてのあなたの意見をもつともよくあらわしていると思われるものを選んでそれぞれ，Most, Some, Few, 又は ? を○で囲んで下さい。

Most ……「大部分の沖縄人は」の意

Some ……「いくらかの沖縄人は」の意

Few ……「ごく僅かの沖縄人は」の意

? ……「わからない」

問1　(Most) (Some) (Few) (?)　Okinawans arefriendly and social.

問2　(Most) (Some) (Few) (?)　Okinawa seem even-tempered

〃

問53

2　被検者

調査の対象として用いられた下士官兵士は週例教育訓練のために集合した167名であり，彼等は兵営や任務を異にしている。

内訳は白人兵 126名，黒人兵28名，その他の有色人兵（東洋系，インデイヤンを含む）13名であつた。

Fig (1)
年令分布

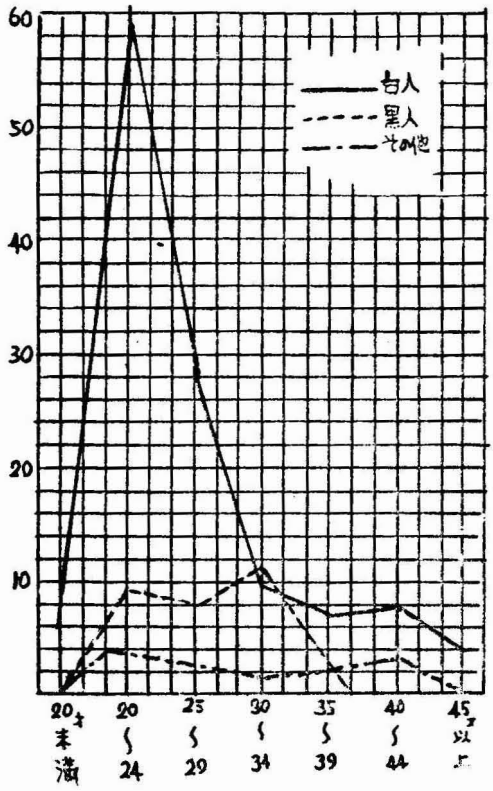


Fig (2)
沖縄 滞在期間分布

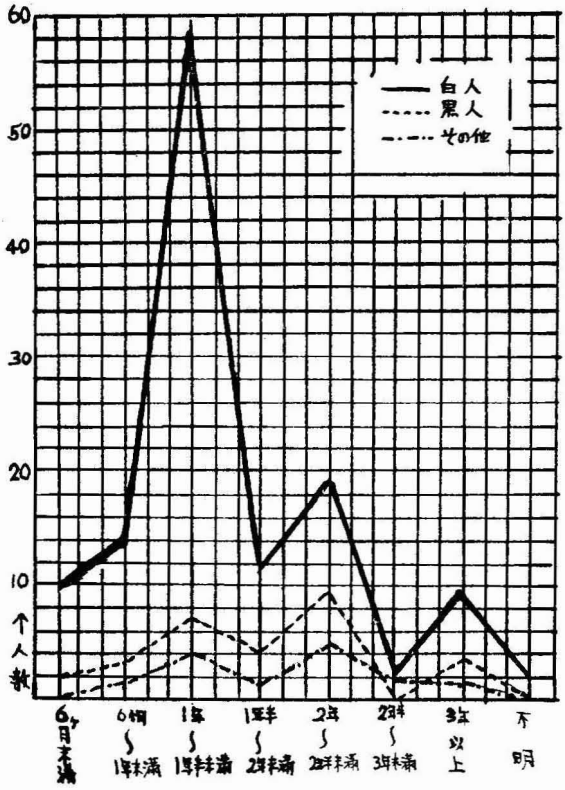


Table (1)　　（職　業　分　布）

職業	人種 白人	黒人	その他有色人種	職業	人種 白人	黒人	その他有色人種
農　業	16	2	1	水上消防	1	0	0
軍　人	14	4	7	金銭登録器修理	1	1	0
トラック運転手	14	4	0	料理人	1	1	1
学　生	12	2	1	理　髪	1	0	0
機械工	5	2	0	牛ばくろう	1	0	0
自動車修理工	3	0	0	船　員	1	0	0
事務員	3	0	0	製粉工場作業監督	1	0	0
仲　仕	2	0	0	製　茶	1	0	0
大　工	2	0	0	技　師	1	0	0
運転手	1	2	0	テレビ作業監督	1	0	0
バス運転手	1	0	0	旅館給仕	1	0	0
タキシー運転手	0	1	0	織物工	1	0	0
重機運転	1	0	0	斡旋業	1	0	0
電機工	1	0	0	労務者	0	1	0
印刷工	1	0	0	ペンキ屋	0	1	0
セメント職	1	0	0	庭　師	0	0	1
パイプ工	1	0	0	ペンキ販売係	1	0	0
練瓦積職	1	0	0	新聞社（事務）	1	0	0
運送業	1	0	1	無　職	3	2	0
倉庫係	1	0	0	無応答	14	3	0
郵便局員	1	0	0	?	8	2	0
牛乳（事務）	1	0	0				

Table 2　　沖縄人を何人位個人的に知つていますか

人種＼友人の数	なし	1人 5人	6人 10人	11人 15人	16人 20人	21人 25人	26人 50人	51人 100人	100人 200人	201人 500人	その他
白　人	29	14	22	13	11	7	7	8	3	2	5
黒　人	6	5	8	1	3	0	1	1	1	1	0
その他	4	1	2	1	1	1	2	0	0	0	0

3　結　果

被検者167名の全体を調査した結果は Table（3）の通りである。

Table　（3）

予備調査の結果　（数字は%）

特　　性	Most	Some	Few	?	特　　性	Most	Some	Few	?
温　和	46.10	30.53	19.16	4.19	癇癪もち	6.56	32.93	50.89	9.58
信頼する	31.13	28.74	29.34	11.37	疑い深い	20.35	51.49	20.35	7.78
活動しすぎる	20.95	22.75	29.34	26.94	動作緩慢	27.54	34.13	28.74	9.58
頑　固	19.76	34.73	40.71	10.77	柔軟性にとむ	15.56	33.53	32.93	17.96
協力的	49.10	34.13	13.17	3.59	非協力的	4.19	26.94	58.08	10.77
辛抱強い	55.68	27.54	10.77	5.98	短　気	8.98	21.55	56.88	12.57
現実的	32.93	38.92	10.77	17.36	非現実的	14.37	27.54	31.13	26.94
聰　明	30.53	56.28	11.37	1.79	愚　鈍	7.78	32.93	38.32	20.95
幸　福	50.29	28.74	17.36	3.59	不安で不愉快	5.38	31.73	53.29	9.58
正　直	44.91	29.94	17.36	7.78	不正直	7.18	30.53	44.91	17.36
勤　勉	40.11	32.93	17.36	9.58	怠　惰	15.56	37.12	32.93	14.37
倫理的	26.34	34.73	16.16	22.75	非道徳的	4.79	39.52	27.54	28.14
礼儀正しい	67.76	16.16	11.37	4.79	粗　野	1.79	21.55	57.48	19.16
人情深い	22.15	38.92	16.76	22.15	冷　淡	7.78	19.16	46.70	26.34
内向的	4.79	26.94	24.55	43.97	外向的	6.56	25.14	19.76	48.50
押しつけがましい	5.38	15.56	59.28	19.76	服従的	8.38	29.34	23.95	38.32
信頼できる	33.53	43.71	16.16	6.58	頼みにならない	7.18	28.74	49.70	14.37
同情的	22.13	41.91	16.16	19.76	批判的	5.98	25.14	41.31	27.54
対人関係大胆	17.36	32.93	33.53	16.16	引き込み思案	17.96	44.31	20.95	16.76
注意深い	30.53	39.52	23.95	5.98	不注意	17.36	32,93	41.31	8.38
不　安	30.53	27.54	28.74	13.17	向う見ず	18.56	32.93	28.74	19.76
用心深い	14.37	34,73	35.92	14.97	冒険好き	13.77	25.14	37.12	23.95
友好的	58.08	32.33	5.98	3.59	情緒的強靱	17.36	29.94	35.32	17.36
敏　感	39.52	36.52	14.97	8.98	のん気	23.35	37.12	26.94	12.57
とつぴ	22.75	38.32	24.55	14.37	恥かしがり	28.14	41.31	22.75	7.78
おしやべり	26.34	37.72	29.34	6.58	奸　智	21.55	33.53	27.54	20.95
衝動的	8.53	35.66	24.80	28.68					

「Most（大部分の沖縄人は）」と答えたものに（＋1）「Some（いくらかの）」に（0）「Few（ごく僅かの）」に（－1）を与え，無応答者及び疑問符の使用を除いた平均値を $\left(\frac{nM-nF}{N-n?}\right)$ を以つて各特性に対する被検者全体の肯定度の大小を表わす指標とした。この場合肯定度は0を中心として ±1 の限界間に広がることになるが実際には最高＋0.6（礼儀正しい）と最低－0.7（粗野である）の範囲内に分布していた。

（O）は「幾らかの沖縄人は—」に該当し特別の傾向としては普通平均程度と考えられ（＋）は積極的に肯定し（－）は否定的又は消極的肯定と解釈されよう。以上の肯定の程度及応答率等の考慮の上，予備テテスト結果の一般的傾向は次の如く要約されよう。

(1) 一般的傾向

（Ⅰ） 沖縄人は一般に情緒的に均衡のとれた温和な気質を持ち癇癪もちや短気な人間は非常に少ないと見ている。〔（　）内は肯定度〕

温　和	(+0.3)	無応答	4.19%
幸　福	(+0.3)	〃	3.59%
癇癪もち	(−0.5)	〃	9.58%
短　気	(−0.5)	〃	12.57%

（Ⅱ） 沖縄人は極めて友好的且つ協力的であると考えている。又「他人を信用しているか」又はその反対に「他人に対して疑い深いか」等の問題についてはさほど顕着な傾向は見られないが「非協力的」「批判的」でなく又決して「冷淡」でないと考えていることは明らかである。

友好的	(+0.5)	無応答	3.6%
協力的	(+0.4)	〃	3.6%
信用する	(0)	〃	11.4%
批判的	(−0.5)	〃	27.5%
非協力的	(−0.6)	〃	10.8%
疑い深い	(0)	〃	7.8%

他人を信用しているか否か疑い深いかは，比較的に内面的なことであり，視察者被観察者間に密接な交渉関係が成立して察知されうることで現在の米軍兵士と沖縄人相互間の如く外面的な接触しか保たれない場合には確実な判断を下しにくいものと思われる。但し，両方ともに無応答の率はさほど大きなものではなく（「信用する」11.4%「疑い深い」7.8%）結局被験者各自の主観的判断が，大きく働いたようである。又友好的，協力的などの特性は当然向性と関連して考えるべきであるが「内向的か」及び「外向的か」の直接的質問に対しては無応答が極めて多く43.9%及び48.5%）信頼できる結果は得られなかつた。

（Ⅲ） 既して沖縄人は勤勉であると考えている。とくに忍耐心が強いことは沖縄人の大きな特徴として挙げられている。但し「活動しすぎるか」と「動作が緩慢であるか」の二つの問に対しては一定の傾向は見られなかつた。

勤　勉	(+0.3)	無応答	9.6%
忍耐強い	(+0.5)	〃	6.0%
怠　惰	(−0.2)	〃	14.4%
活動過剰	(−0.1)	〃	26.9%
動作緩慢	(0)	〃	9.6%

（Ⅳ） 沖縄人は極めて礼儀の正しい民族であると見ている。又正直という点でも積極的に肯定しているがこれは沖縄人の道徳性一般を高く評価していることを示唆する

ものではないかと思われる。予備テストの被験者全体のうち67.8%が「大部分の沖縄人は礼儀正しい」と答えており，全特性項目中で最も積極的に肯定している特性である。又「倫理的か」の問に対しては普通程度と考えているが「非道徳的であるか」に対してはこれを強く否定している 。

礼儀正しい	(+0.6)	無応答	4.79%
正　直	(+0.3)	〃	7.8 %
倫 理 的	(+0.1)	〃	22.8 %
粗　野	(−0.7)	〃	19.2 %
不 正 直	(−0.5)	〃	17,4 %
非道徳的	(−0.3)	〃	28.2 %

一般に価値的な好ましい特性を肯定文で質問する時の肯定の度合よりも同じ特性を否定文形式で尋ねた場合の否定の度合は非常に積極的となつている。（例えば「正直か」に対しては +0.3 で肯定しているが同じ特性を「不正直か」と云う否定文形式で質問すると−0.5で強く否定している。）

(Ⅴ) 沖縄人は概して現実的に物事を考えて居り，又冒険好きではないと考えている。

現 実 的	(+0.3)	無応答	17.36%
非現実的	(−0.3)	〃	26.94%
冒険好き	(−0.3)	〃	23.95%
向う見ず	(−0.1)	〃	19.8 %

(Ⅵ) 沖縄人は，知的方面で愚鈍ではなく，聰明な人も多いと考えている。

愚　鈍	(−0.4)	無答応	20.95%
聰　明	(+0.2)	〃	1,97%

(Ⅶ) 沖縄人は不注意だとは思つていないが又殊更に注意深いとは思つていない。

注意深い	(+0.1)	無答応	5.98%
不 注 意	(−0,3)	〃	8.38%

(Ⅷ) 沖縄人は相当に敏感で感受性強く，愚鈍ではなく，又情緒的に強靱だとも思つていない。

敏　感	(+0.3)	無応答	8.98%
愚　鈍	(−0.4)	〃	20,95%
情緒的に強靱	(−0.2)	〃	17.36%

(Ⅸ) 沖縄人は一概に消極的で引込み思案であるとは見ていないが，対人関係で臆せず大胆に振舞うことは少ないと考えている。命令的で押しつけがましいとは殆んどいないが，服従的な人も少ないと見ている。「おしやべりり」とか「恥かしがり」と云う点では普通程度と見ている。尚「服従的」と「押しつけがましい」には無応答が多かつた。

引込み思案	(0)	無応答	16.8 %
恥かしがり	(+0.1)	〃	7.8 %
服 従 的	(−0.3)	〃	38.3 %

押しつけがましい	(−0.7)	〃	19.8 %
対人関係で大胆	(−0.2)	〃	16.2 %
おしゃべり	(0)	〃	6.6 %

(X) 沖縄人は概して幸福そうで，心配勝ちで不愉快そうな人は非常に少ないと見ている。

心配勝ちで不愉快そう	(−0.5)	無応答	9.6 %
幸福そう	(+0.3)	〃	3.6 %
のんき	(0)	〃	12.6 %
不安	(0)	〃	13.2 %

(VI) 沖縄人は比較的に信頼できる民族である。

信頼できる	(+0.2)	無応答	6.6 %
頼みにならない	(−0.4)	〃	14.4 %
とつぴな性格	(0)	〃	14.4 %

(2) 修学年数が米軍兵士の沖縄人に対する意見に及ぼす影響

予備テストにおける。124名の白人兵士の修学年数の分布状態は Fig.(3)に示されている通りである。 12ケ年の修学は高等学校卒業程度であるが124名を12未満のグループと満12年未満以上のグループに分けると，丁度62名宛の２グループができる。前者をグループＡ後者をグループＢとすれば，ＡＢグループ別のテスト結果はTable(4)の如くである。

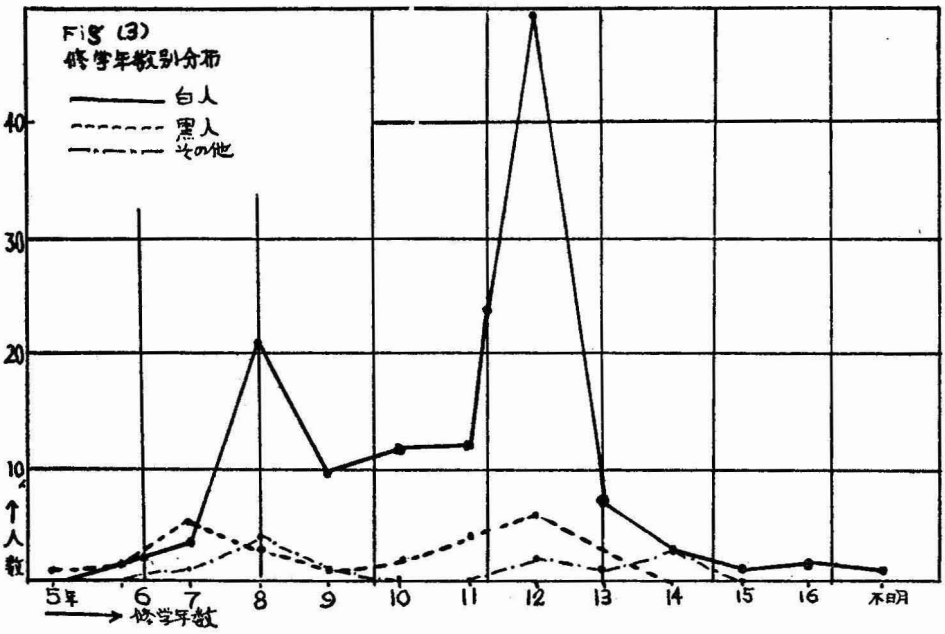


Table (4)

修学年数１２ケ年未満および１２ケ年以上の

２グループの予備テスト結果 $\left(\text{肯定度}\frac{nA-nB}{N-n?}\times 100\right)$

特性	12ケ年未満		12ケ年以上		特性	12ケ年未満		12ケ年以上	
	肯定度	?	肯定度	?		肯定度	?	肯定度	?
友好的	40.−	2	71.64	2	対人関係では大胆	−18.75	14	−17.80	6
温和	11.86	5	54.83	0	のんき	−74.00	8	− 7.01	5
疑い深い	5.36	8	− 6.66	2	おしやべり	−	2	−11.86	3
心配 不安 小心	− 1.78	6	7.54	9	柔順性にとむ	−19.56	16	−25.92	8
感情的に強い	−28.88	17	−12.72	7	おしつけがましい	−77.27	16	−66.66	8
活動過剰	−20.00	22	− 1.88	9	緩慢	−11.53	10	19.67	1
頑固	−28.57	6	−37.93	4	冒険的	−29.26	21	−47.16	9
非協同的	−52.83	9	−79.31	4	とつぴ	− 8.−	12	3.57	6
信頼する	8.16	13	1.66	2	粗野	−68.18	15	−75.92	8
聰明	10.00	2	25.80	0	注意深い	3.38	3	8.42	3
短気	−42.59	8	−72.72	7	批判的	−35.00	22	−62.74	11
軽卒	−12.50	6	−39.28	6	頼みになる	18.64	3	35.59	3
非現実的	−19.40	20	−33.33	14	服従的	−30.00	32	−10.56	16
むこうみず	−16.34	13	1.66	8	癇癪もち	−51.72	5	−51.78	6
忍耐強い	39.65	4	59.32	2	信頼出来ない	−47.05	11	−47.27	7
くよくよしている	−43.39	9	−51.66	2	不正直	−51.02	13	−46.42	6
正直	21.56	11	34.42	1	同情的	6.66	17	13.79	4
勤勉	16.98	9	25.40	3	奸智	−13.33	17	− 5.26	5
敏感	24.52	9	20.−	2	外向的	−30.43	39	−22.22	25
幸福	44.06	3	60.−	2	衝動的	−26.31	24	−26.41	9
協力的	26.31	5	46.12	0	現実的	24.52	9	23.52	11
非道徳的	−37.14	27	−15.68	11	消極的	−20.00	12	0.00	3
礼儀正しい	43.85	5	70.16	2	倫理的	4.16	14	11.53	10
人情味	− 4.65	19	21.51	7	恥かしがりや	5.35	6	18.65	3
冷淡	−35.00	22	−70.58	11	怠惰	5.76	10	−29.09	7
用心深い	−18.−	12	−22.64	9	愚鈍	−44.44	17	−42.85	6
内向的	−34.78	18	−31.81	40					

両集団の肯定度平均（A−−1.2）（B−0.9）の差を検定するために，A，Bグループの標準偏差の差を検定によつて調べた結果 t=−0.49 df（自由度）=122で，P.=.7となり 両集団は全特性項目に関しては有意の差は認められない。但し，かかる特性項目全体についての綜合的肯定度の強弱にかかわらず個々の特殊的特性に関する判断や意見の相

異は存在しうるものと与えられるために，各特性項目についての両者の判断傾向を調べる必要がある。X^2によつて各特性についてのA，B両グループの差の検定を行つて結果危険率（P）の許容限度を・D5として Table（5）で示された特性項目につい

Table （5）

	特性	A グループ 肯定度	A グループ 無応答	B グループ 肯定度	B グループ 無応答	(P)
Bグループがより肯定的	友好的	(+0.40)	3.2%	(+0.72)	3.2%	.02
	温和	(+0.12)	8.1	(+0.55)	0	.01
	聰明	(+0.10)	3.2	(+0.26)	0	.01
	正直	(+0.22)	17.7	(+0.34)	1.6	.02
	人情深い	(−0.05)	30.6	(+0.22)	11.3	.05
	情緒的に強靱	(−0.29)	27.4	(−0.13)	11.3	.02
	消極的	(−0.20)	14.5	(0)	17.7	.05
	動作緩慢	(−0.12)	16.1	(+0.20)	1.6	.02
Aグループがより肯定的	非協力的	(−0.53)	14.5	(−0.79)	6.5	.05
	冷淡	(−0.35)	35.5	(−0.71)	17.7	.01
	不安で不愉快	(−0.43)	14.5	(−0.52)	3.2	.05
	批判的	(−0.35)	35.5	(−0.63)	17.7	.02
	信頼する	(+0.08)	21.0	(+0.02)	3.2	.02

て有意の差が認められた。一般に「友好的」「温和」「聰明」等ののぞましい特性については修学年数の多い方が沖縄人に対してより肯定的である。危険率，50以上のものでこのような傾向のうかがわれた特性としては「忍耐強い」（P＝.30）「勤勉」（P＝.10）「協力的」（P＝.10）「礼儀正しい」（P＝.20）「倫理的」（P＝.20）等があつた。

教養が低ければ外集団に対してより強い偏見を持ち，その反対に教養が高ければより寛大になることは明らかにされているが，この予備テストの結果からも同様の傾向がうかがわれる，本研究のアメリカ人標本として米軍兵士を用いたために学歴の点から見て彼等の大部分は一般アメリカ市民としては低い地位を占めて居り，とくに大学卒業者は殆んど将校になる点なども考慮するとこの標本として用いたアメリカ人兵士はアメリカの一般市民を正しく代表するものと考えることは妥当でない。併しながら，現在の沖縄の地域社会で沖縄人一般と接触交渉を保つているのは大部分が下士官以下一般兵士であるが故に，尚且つ団体テストの実施上の容易さからとくに米軍下士官兵士を調査対象として選んだ訳である。従つてこの調査はアメリカ人の観察による沖縄人の人格の考察であると言うよりもむしろ「アメリカ軍兵士」の観察によるものとして限定することが必要である。

(3) 沖縄滞在期間が沖縄人に対する意見に及ぼす影響

沖縄に派遣された米軍兵士の平均駐留期間は約1年半である。1年半以上の滞在は滞

在は本人の自発的希望による。予備テストに含まれた兵士のテストを受けた日までの滞在期間は Fig（2）に示されている。

Table （6）

米軍兵士の滞在期間別肯定度

特性	1年未満 M−F / N−?	?	1ケ年〜2ケ年 M−F / N−?	?	2ケ年以上 M−F / N−?	?	特性	1ケ年未満 M−F / N−?	?	1ケ年〜2ケ年 N−F / N−?	?	2ケ年以上 M−F / N−?	?
友好的	0.68	1	0.52	2	0.57	1	対人関係では大胆	−0.31	7	−0.19	10	0.05	3
温和	0.45	1	0.27	3	0.33	1	呑気	−0.71	4	0.−	7	−0.10	2
疑い深い	−0.03	3	0.−	4	0.05	3	おしやべり	−0.22	2	0.07	2	−0.15	2
心配 不安 小心	0.06	6	0.09	6	−0.21	3	柔順性に富む	−0.32	8	−0.16	11	−0.24	5
感情的に強い	−0.24	10	−0.15	10	−0.37	3	おしつけがましい	−0.84	8	−0.03	10	−0.78	4
活動過剰	0.04	12	−0.15	16	0.05	3	緩慢	0.21	5	−0.05	4	−0.10	2
頑固	−0.34	4	−0.31	4	−0.35	2	冒険的	−0.44	12	−0.36	12	−0.19	6
非協力的	−0.74	3	−0.63	3	−0.65	5	とつぴ	0.18	5	−0.06	8	−0.28	4
信頼する	0.06	8	0.06	8	0.−	4	粗野	−0.73	9	−0.67	7	−0.71	5
聰明	0.18	0	0.18	0	0.14	1	注意深い	0.11	4	0.07	1	−0.09	1
短気	−0.62	7	−0.63	7	−0.35	5	批評的	−0.59	10	−0.37	17	−0.48	5
軽卒	−0.20	4	−0.29	4	−0.21	3	頼みになる	0.17	3	0.25	2	0.24	1
非現実的	−0.33	16	−0.26	16	−0.25	6	服従的	−0.19	18	−0.12	21	−0.69	9
むこうみず	−0.19	13	−0.14	13	−0.28	4	癇癪もち	−0.55	6	−0.46	5	−0.59	0
忍耐強い	0.55	1	0.47	3	0.50	2	信頼できない	−0.39	6	−0.51	9	−0.34	3
くよくよしている	−0.31	4	−0.58	5	−0.60	2	不正直	−0.53	9	−0.40	7	−0.61	3
正直	0.37	4	0.12	3	0.48	1	同情的	0.66	3	0.11	15	0.11	3
勤勉	0.24	2	0.17	8	0.37	3	奸智	0.03	7	−0.12	11	−0.22	4
敏感	0.31	4	0.16	4	0.26	3	外向性	−0.11	23	−0.19	31	−0.23	9
幸福	0.18	1	0.50	2	0.24	1	衝動的	−0.38	13	−0.13	15	0.41	5
協力的	0.47	1	0.25	2	0.35	2	現実的	0.19	7	0.30	8	0.06	5
非道徳的	0.21	11	−0.15	22	−0.56	6	消極的	0.06	6	−0.09	5	−0.33	4
礼儀正しい	0.73	2	0.45	2	0.60	2	倫理的	0.14	10	0.04	12	0.24	1
人情味	0.15	12	0.10	13	0.21	3	恥かしがりや	0.25	4	0.02	3	−0.05	1
冷淡	−0.61	11	−0.57	16	−0.40	7	怠惰	−0.21	5	−0.16	6	−0.12	5
用心深い	−0.17	10	−0.27	6	−0.33	4	愚鈍	−0.48	10	−0.38	9	−0.50	4
内向的	−0.25	19	−0.31	27	−0.73	11							

Table（6）によつて，沖縄滞在期間1ケ年未満，1ケ年以上，2ケ年未満，及び満2ケ年以上の3グループの各特性に対する肯定度を比較すれば，三者間に特に顕著な差異の見られないことが判る。各特性のもつ好ましさの度合から推測すれば，満2ケ年以上の滞在者が沖縄人を最も好ましい民族と見て居り，次は1ケ年未満者で最下位は1ケ年以上2ケ年未満の者であるらしい。推定の根拠としては各グループについて，他の2グループよりも強く肯定した特志を選び出しそれらの特性のうちから好ましい特性と好ましくない特性の頻数を計

算し，更にそのグループが他の2グループよりも低い肯定度即ち強い否定度を示した特性について，好ましい特性と好ましくない特性の頻数を計算しその総合結果を基礎にした。これによつて「沖縄に駐留する米軍士は駐留期間の初期においては，沖縄人に対して比較的に好意的な態度をもち，長らく滞在しているうちに好意的態度を失い数年以上滞在すると再び好意的態度を回得し最も好意的となる」のではないかという新らしい仮説が生ずる。勿論好意的態度を決定するのは単に滞在期間だけに限らず多くの他の要因に支配されることであろうし，又2ケ年以上の駐留は本人の自由意志によつて決められるものであり，長期間駐留者の中にはすでに沖縄人女性と結婚して家庭をもつているものも少なからずいるものと考えられるので現在の資料のみではこの仮説の検討は困難である。

(4) 質問紙の検討

(Ⅰ) 応答率，応答傾向の一致度等を考慮して不適切な問題を本テストでは削除することにした。(「何か起りはせぬかと不安」，「日常生活で活動しすぎる」，「情緒的に強靱」，「他人を信用する」，「内向的」，「向う見ず」，信頼できない」，「奸智にたけた」，」冷淡」，「柔軟性のある意見」，「行動を予測できない」，「他人に対して批判的」，「信頼できる」等)

(Ⅱ) 道徳的，社会的に考えて極端に好ましいものと，又その反対に好ましくない特性(「聰明」，「非道徳的」，「不正直」，「愚鈍」等)は本テストから除くことにした。

(Ⅲ) 学歴の低いものが少なからず含まれていたので本テストの問題では用語や文章をできるだけ判りやすくするようにした。

(Ⅳ) 疑問符の使用が極めて多く，比較的判断しやすいと思われる問題についても疑問符を用いたのが多かつたので本テストでは疑問符を選択項肢には含めないことにした。

(Ⅴ) Most. Some. Few. の三つを選択項肢とすると Most の使用に不適当の感じを抱く被検者が居つたので Many (多くの) Some (いくらかの) Few (ごく僅かの) に改めることにした。

Ⅱ 本テスト

1. 研究目標

(1) 沖縄人の自己評価と米軍兵士の観察によつて求められる沖縄人の民族的人格諸特性を吟味する。

(2) 沖縄人に対する対照的民族としてアメリカ人についての沖縄人の観察と米軍兵士の判断によつて，アメリカ人の民族的人格諸特性を吟味する。

(3) 民族的人格特性の「好ましさ」desirability を検討して沖縄人の自我意識，沖縄人のアメリカ人観，米軍兵士のアメリカ人観に示される「好ましさ」の度合を吟味する。

(4) 沖縄人のアメリカ人観と自民族観における差異及びアメリカ人の沖縄人観と自民族

観における差異を検討し両者の自他民族間の相異を吟味する。

(5) 沖縄人の自己評価とアメリカ人観に男女間の差が見られるか否かを検討する。

(2) 研究方法

予備テストの結果不適切と認められた特性項目を除外し，さらに沖縄人とアメリカ人間の対照的，民族的人格特性として重要と思われる新らしい特性項目を加えて，別表(2)，(3)(4)，(5)，の如き質問紙を作成した。これらの質問紙はそれぞれ別表(2)米軍兵士の沖縄人に対する意見，別表(3)米軍兵士のアメリカ人に対する意見，別表(4)沖縄人の沖縄自身に対する意見，別表(5)沖縄人のアメリカ人に対する意見を調査するためのものであるが，人格特性の種類，配列順位，質問形式などは全く同一であり，特に問題の英訳については問題の意味やその文章から受ける印象等が和文質問紙とできるだけ一致するように注意した。

1956年5月に琉球大学学生と米陸軍及び空軍の下士官兵士に質問紙によるテストを実施したが各質問紙に用いられた標本の大きさは次の通りである。

米軍兵士の沖縄人に対する意見	嘉手納航空隊	122名		
米軍兵士のアメリカ人に対する意見	牧港工兵隊	68名		
沖縄人の沖縄自身に対する意見	琉大学生	男75名	女25名	計100名
沖縄人のアメリカ人に対する意見	琉大学生	男67名	女36名	計103名

(3) 本テストの結果と考察

(1)被検者について

Fig (4)
被検者年令分布
(アメリカ兵士の沖縄人親)

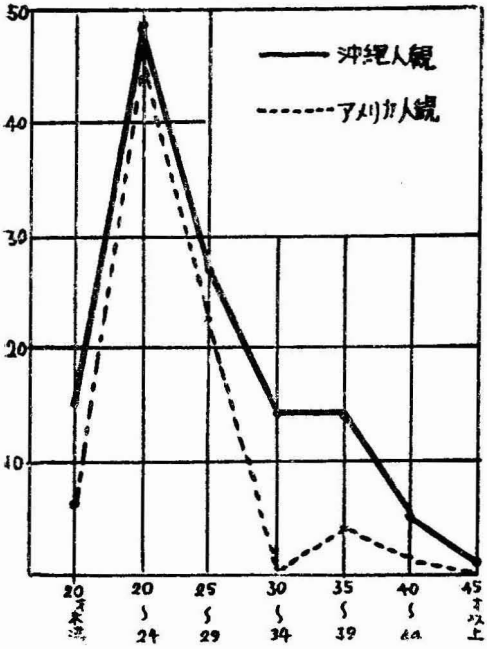


Fig (6)
アメリカ兵士の沖縄人親
沖縄滞在期間

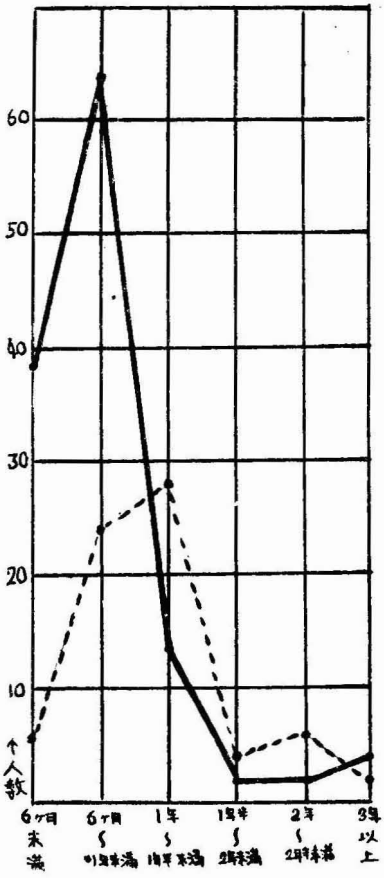


Fig (5)

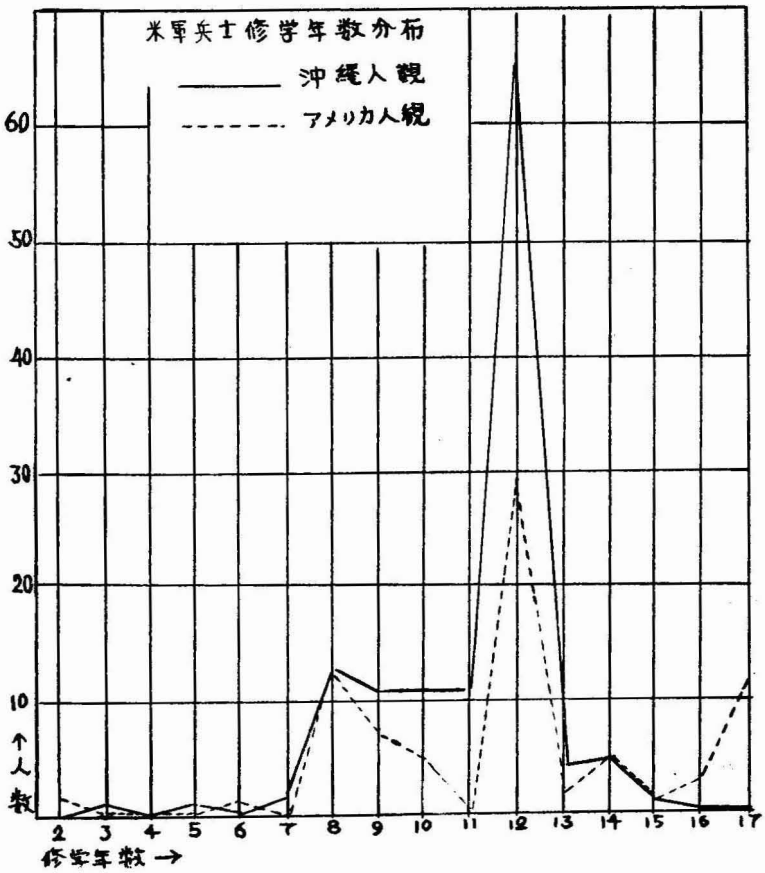

米軍兵士修学年数分布
沖縄人親
アメリカ人親
60
50
40
30
20
10
↑人数
2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17
修学年数 →

Fig (7)
沖縄人年令分布
(沖縄人觀)

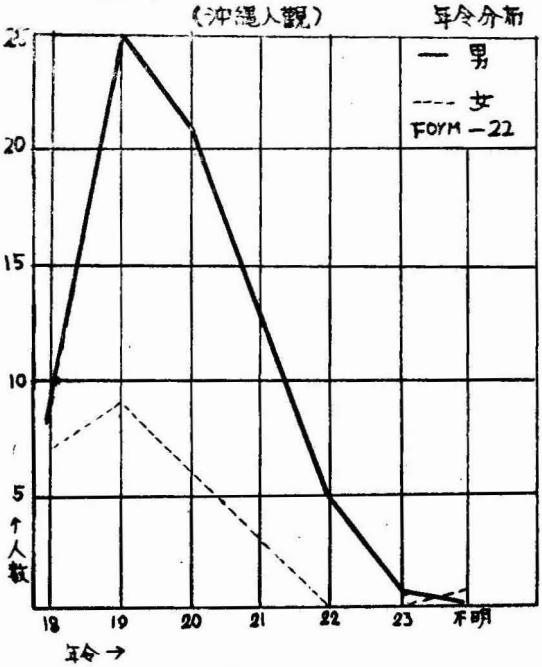


Fig (8)
沖縄人出身地別分布
(沖縄人觀)

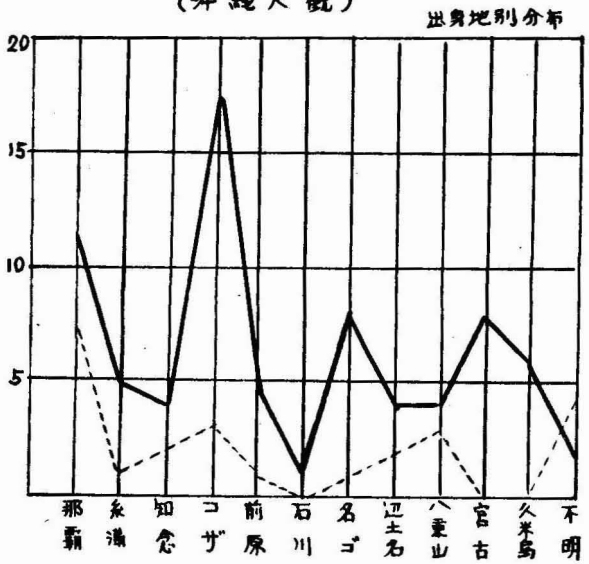


Fig (9)
沖縄人年令分布
(アメリカ人観)

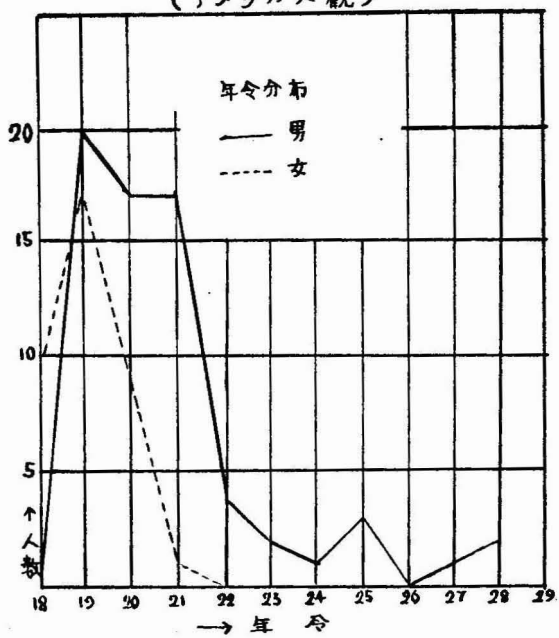
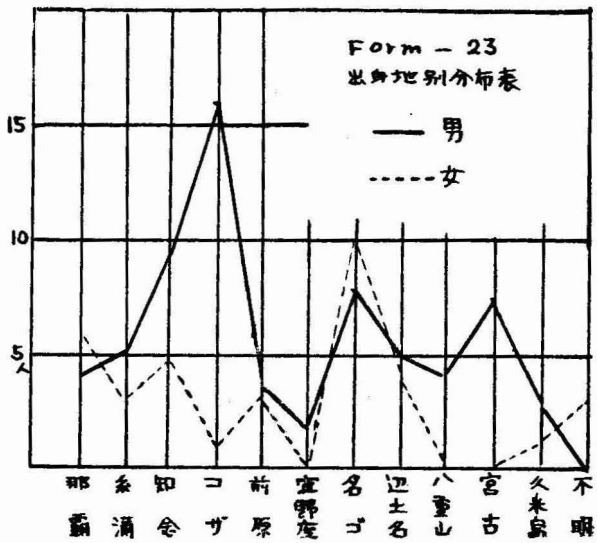


Fig (10)
沖縄人出身地別分布
(アメリカ人観)



琉大の学生は沖縄人一般を代表するものとして考えることは妥当ではなく，又アメリカ人一般の代表として米軍兵士を用いたことも妥当ではない。従つて，この調査の結果は標本の性質に制限された範囲内で解釈すべきであり即決的な一般化は慎しまなければならない。

別　表　(2)

民族的人格特性調査　　(原文は英語)

年令＿＿＿＿　出身州＿＿＿＿　階級＿＿＿＿　民間職業＿＿＿＿

沖縄に来てからどの位になりますか。

何年間学校教育を受けましたか。

沖縄人を個人的に知つていますか。　はい＿＿＿＿　いいえ＿＿＿＿

もし知つているなら何人位　＿＿＿＿＿＿

注意

この質問紙の目的はもつとも普通の沖縄人がアメリカ人の眼からどのように見えるかを調べようとするのです。あなたの知能の程度を調べようとするのではありませんし，又答に正しい答とか誤りなどというのはありません。ある特定の沖縄人だけについて考えずに，あなたが直接間接に知つている沖縄人一般について正直に答えて下さい。この結果からあなたが不利になるようなことは決してありません。

問題の前にあるA，B，及びCの内，あなたの意見をもつともよくあらわしているものを選んで○で囲んで下さい。（Aは「多くの沖縄人は」Bは「幾らかの沖縄人は」Cは「ごく僅かの沖縄人は」を意味しています。

例：　A (Many)
B (Some)
C (Few)　} 沖縄人は冷淡である。

（意味－「ごく僅かの沖縄人は冷淡である」）

一問も残さずに答えて下さい。他の人と相談しないで下さい。

問1.　A (Many)
B (Some)
C (Few)　} 沖縄人は独立心が強い。

問2.　A (Many)
B (Some)
C (Few)　} 沖縄人は感情にむらがない。

〜

問40

別　表　(3)

民族的人格特性調査　　(原文は英語)

年令＿＿＿＿　出身州＿＿＿＿　階級＿＿＿＿　民間職業＿＿＿＿

沖縄に来てからどの位になりますか。＿＿＿＿＿＿＿＿

何年間学校教育を受けましたか。＿＿＿＿＿＿＿＿

注意

もつとも普通なアメリカ人とはどんなものであるかを調べようとするのがこの質問紙の目的です。これはあなたの知能の程度を見ようとしたり，又はあなたの答の良し悪しを決めようとするものではありません。ある特定のアメリカ人に限らないで，アメリカ人一般について思つた通りを正直に答えて下さい。この結果からあなたが不利となるようなことは決してありません。問題の前にあるA，B，C，の内からあなたの意見をもつともよくあらわしているものを選んで○で囲んで下さい。

問1.　A (Many)
　　B (Some)　アメリカ人は独立心が強い。
　　C (Few)

（以下別表（2）と同じ）

別　表（4）

沖縄民族特性調査

年令(満)＿＿＿＿才　市町村名＿＿＿＿＿＿　性別　男・女　学年次　1.2.3.4.

内地に行つたことがありますか。　は い　いいえ

どの位内地に滞在しましたか。

外国（台湾，朝鮮なども含めて）に行つたことがありますか。　は い　いいえ

どこに＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

滞在期間＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

注意

もつとも典型的な沖縄人とはどんな人間像であるかを調べようとするのが，このテストの目的です。あなたの知能の程度を調べようとしたり，又は人格の良し悪しをきめようとするものではありませんから思つた通りをまじめに正直に書いて下さい。又沖縄人のうちある特定の個人を考えないで，沖縄人一般を対象として考えることが必要です。

答え方

問題を読んであなたの意見をもつともよくあらわしていると思われるものを選んでそれぞれ，A，B，又はCの符号を○で囲んで下さい。

A……「多くの沖縄人は」の意味

B……「いくらかの沖縄人は」の意味

C……「ごく僅かの沖縄人は」の意味

例

A　(多くの)
B　(いくらかの)　沖縄人は冷淡である。
C　(ごく僅かの)

（意味）　多くの沖縄人は冷淡である。

答え方の注意

(1) A，B，C，のどちらか，はつきりしない時でもあなたの想像にまかして，一問も残さず答えて下さい。

(2) 他の人と相談しないで，自分の考え通りにつけて下さい。

問1. A（多くの）
〜 B（いくらかの） 沖縄人は独立心が強い。
C（ごく僅かの）

問4. 40

別　表（5）

民族性調査

年令（満）＿＿＿＿＿才　　出身地（市町村名）＿＿＿＿＿＿＿＿

性別＿＿＿＿＿＿＿＿　　学年次＿＿＿＿＿＿＿＿

あなたが個人的に知つている米人がいますか。　はい　いいえ

何人位知つていますか。＿＿＿人位

アメリカ人に話したことがありますか。　はい　いいえ

アメリカ人と一緒に仕事をしたことがありますか。　はい　いいえ

注意

このテストは，沖縄人の眼から見たアメリカ人の民族的性格を調べるためのものです。あなたの知能程度を調べようとしたり，又は人格の良し悪しをきめようとするものではありませんから安心して，思つた通りを正直に答えて下さい。ある特定のアメリカ人ではなく，アメリカ人一般についてあなたが，直接，間接に得た印象を書くことが，大切です。

（以下別表（4）と同じ）

(2) 沖縄人の民族的人格特性について

沖縄人自身の意見と米軍兵士の沖縄人についての意見を比較するために A（Many 多くの）B（Some 幾らかの）C（Few ごく僅かの）答をそれぞれ＋1，0，－1．と換算して無応答者を除いた平均値 $\left(\frac{nA-nC}{N-n?}\right)$ を求めてこれが個々の特性項目に対する集団の肯定度を表わす指標とすれば，沖縄人の自己評価と米軍兵士による沖縄人観は Table (7) の如くである。

Table (7)

沖縄人の民族特性

$$\left(\text{肯定度} = \frac{nA - nC}{N - n?}\right) \qquad 40 \text{ 問}$$

特性	沖縄人の自己評価		米軍兵士の観察		特性	沖縄人の自己評価		米軍人の観察	
	肯定度	順位	肯定度	順位		肯定度	順位	肯定度	順位
消極的で引込み思案	0.94	1	0.23	13	衝動的	0.11	21	−0.35	34
恥かしがりや	0.83	2	0.20	15	感情にむらがない	0.07	22	0.52	6
柔順で服従的	0.68	3	0.32	10	疑い深い	0.07	22	0.07	25
単純	0.56	4	0.20	15	軽卒	0.05	24	−0.14	27
無口	0.52	5	0.22	14	道徳的	0.01	25	−0.16	28
頑固	0.50	6	−0.16	28	卒直	−0.02	26	−0.11	26
同情的	0.49	7	0.17	17	敏感	−0.04	27	0.34	9
辛抱強い	0.46	8	0.58	4	協力的	−0.11	28	0.57	5
人情に厚い	0.40	9	6.10	22	礼儀正しい	−0.11	28	0.64	3
利己的	0.38	10	−0.45	36	思索的	−0.16	30	0.09	23
正直	0,37	11	+0.44	8	注意深い	−0.17	31	0.31	11
動作粗野	0,37	11	−0.54	38	独立心	−0.26	32	0.12	20
動作緩慢	0.36	13	0.25	12	おしやべり	−0.29	33	0.14	19
のんき	0.34	14	0.17	17	社交的	−0.31	34	0.50	7
現実的	0.27	15	0.09	23	理想主義	−0.36	35	−0.21	31
興奮し易い	0.21	16	0.11	21	大胆	−0.38	36	−0.23	32
用心深い	0.19	17	−0.16	28	外向的	−0.43	37	−0.37	35
神経質	0.19	17	−0.46	36	威圧的	−0.49	38	−0.81	40
勤勉	0.16	19	0.76	1	幸福そう	−0.56	39	0.65	2
短気	0.16	19	−0.67	39	冒険好き	−0.59	40	−0.27	33

沖縄人の特性に関してはアメリカ軍兵士の評価と沖縄人自身の評価の相関は偏差積法によつて $\gamma = 0.44$ の関係が見られる。これは積極的ではあるが強い関係であるとは考えられない。沖縄人の民族的諸特性に関するアメリカ軍兵士の見方と沖縄人の見方には相当な錯誤があると言えよう。

更に，各特性項目のアメリカ軍兵士の評価順位と沖縄人の自己評価による順位の調べることによつて，両者の意見の内容的な差を検討すれば次の通りである。

A　沖縄人について米軍兵士と沖縄人双方の意見がほぼ一致したもの

（順位差が±5以内）

	順位差	沖縄人のつけた順位	米軍兵士のつけた順位
卒直	0	26（40項目中）	26
動作緩慢	1	13	12
威圧的	2	38	40

	順位差	沖縄人のつけた順位	米軍兵士のつけた順位
外向的	2	37	35
正直	3	11	8
のんき	3	14	17
疑い深い	3	22	25
軽卒	3	24	27
道徳的	3	25	28
辛抱強い	4	8	4
理想主義	4	35	31
大胆	4	36	32
興奮しやすい	5	16	21

B　沖縄人自身が米軍兵士の評価よりも高く評価したもの

	順位差	沖縄人のつけた順位	米軍兵士のつけた順位
動作が粗野	27	11	38
利己的	26	10	36
頑固	22	6	28
短気	20	19	39
神経質	19	17	16
衝動的	13	21	34
人情に厚い	13	9	22
恥かしがり	13	2	15
消極的で引込み思案	12	1	13
用心深い	11	17	28
単純	11	4	15
同情的	10	7	17

C　米軍兵士による評定よりも沖縄人自身が低く評価したもの　（順位差10以上）

	順位差	沖縄人のつけた順位	米軍兵士のつけた順位
幸福そう	37	39	2
社交的	27	34	7
礼儀正しい	25	28	3
協力的	23	28	5
注意深い	20	31	11
敏感	18	27	9
勤勉	18	19	1
感情にむらがない	16	22	6
おしやべり	14	33	19
独立心	12	32	20

各特性項目について米軍兵士の沖縄人に対する意見意見と沖縄人自身の評価の間に有意な差が見られるか，否かをX^2検定によつて調べた結果は Table(8) の通りである。

Table (8)

沖縄人に対する沖縄人自身の意見と米軍兵士の意見（X^2検定結果）

特性	沖縄人の評価 肯定度	米軍兵士の評価 肯定度	危険率 P	特性	沖縄人の評価 肯定度	米軍兵士の評価 肯定度	危険率 P
消極的で引込み思案	0.94	0.23	0.01	衝動的	0.11	−0.35	0.01
恥かしがり	0.83	0.20	0.01	感情にむらがある	0.07	0.52	0.99×
柔順で服従的	0.68	0.32	0.01	疑い深い	0.07	0.07	0.99×
単純	0.56	0.20	0.01	軽卒	0.05	−0.14	0.20×
無口	0.52	0.22	0.01	道徳的	0.01	−0.16	0.20×
頑固	0.50	−0.17	0.01	卒直	−0.02	−0.11	0.01
同情的	0.49	0.17	0.01×	敏感	−0.04	0.34	0.01
忍耐強い	0.46	0.58	0.01	協力的	−0.11	0.57	0.01
人情に厚い	0.40	0.10	0.01	礼儀正しい	−0.11	0.64	0.01
利口的	0.38	−0.45	0.01	思索的	−0.16	0.09	0.01
正直	0.37	0.44	0.07×	注意深い	−0.17	0.31	0.70×
動作粗野	0.37	−0.54	0.01	独立的	−0.26	0.12	0.70×
動作緩慢	0.36	0.25	0.01	おしやべり	−0.29	0.14	0.01
のんき	0.34	0.17	0.01	社交的	−0.31	0.50	0.01
現実的	0.27	0.09	0.05	理想主義	−0.36	−0.21	0.20×
興奮し易い	0.21	0.11	0.50×	大胆	−0.38	−0.23	0.01
用心深い	0.19	−0.16	0.01	外向的	−0.43	−0.37	0.80×
神経質	0.19	−0.46	0.01	威圧的	−0.49	−0.81	0.01
勤勉	0.16	0.76	0.01	幸福そう	−0.56	0.65	0.01
短気	0.16	−0.67	0.01	冒険好き	−0.59	−0.27	0.95×

（×印は両者間に有意の差を認め得ないもの）

以上の結果から米軍兵士と沖縄人自身の意見が一致した顕著な沖縄人の民族的特性は沖縄人が　1威圧的でないこと　2外向的でないこと　3辛抱強いこと　4正直なこと　5理想主義的でないこと　6対人関係で大胆ではないことなどが考えられる。

沖縄人自身が自民族の著しい特徴として考えている特性は（沖縄人自身による順位の10番までを考慮すれば）その殆んどが好ましくない人格特性であるが，そのうち第8位の「辛抱強い」を除いて残りのすべては米軍兵士による評定との順位差が極めて大であり，アメリカ人が外部から観察した沖縄人像と沖縄人の自我意識との間に大きなへだたりがあることを示している。

(3) アメリカ人の民族的人格特性について

アメリカ軍兵士のアメリカ人に対する意見と，沖縄人のアメリカ人に対する意見を比較検討するために，40項目にわたる特性の各々についての集団の肯定度とその順位は Table（9）に示す通りである。

Table （9）

アメリカ人の民族特性

特性	米軍兵士の評価		沖縄人の評価		特性	米軍兵士の評価		沖縄人の評価	
	肯定度	順位	肯定度	順位		肯定度	順位	肯定度	順位
幸福そう	0.94	1	0.76	2	理想主義	0.29	21	−0.11	30
社交的	0.93	2	0.74	3	辛抱強い	0.26	22	−0.11	30
勤勉	0.87	3	−0.18	28	衝動的	0.25	23	0.24	16
協力的	0.85	4	0.37	13	外向的	0.15	24	0.77	1
正直	0.75	5	0.16	20	柔順で服従的	0.15	24	−0.69	37
道徳的	0.71	6	−0.27	33	短気	0.12	26	0.09	23
卒直	0.69	7	0.46	10	興奮しやすい	0.06	27	0.55	8
人情に厚い	0.67	8	0.08	24	疑い深い	0	28	−0.11	28
礼儀正しい	0.67	8	−0.12	32	用心深い	−0.03	23	0.15	21
冒険好き	0.63	10	0.45	11	頑固	−0.03	30	−0.38	35
同情的	0.60	11	−0.09	27	軽卒	−0.18	31	0.22	18
おしゃべり	0.57	12	0.59	7	神経質	−0.31	32	−0.61	36
現実的	0.51	13	0.63	6	威圧的	−0.34	33	0.23	17
注意深い	0.50	14	−0.07	26	利己的	−0.40	34	0.25	15
敏感	0.46	15	0.14	22	動作が粗野	−0.40	34	0.34	14
独立心	0.41	16	0.71	4	消極的で引込み思案	−0.41	36	−0.83	38
感謝にむらがない	0.35	17	0.18	19	単純	−0.54	37	0.40	12
思索的	0.34	18	−0.28	34	恥かしがり	−0.54	37	−0.88	40
対人関係大胆	0.30	19	0.70	5	無口	−0.56	39	−0.85	39
のんき	0.30	19	0.51	9	動作緩慢	−0.61	40	0.06	25

アメリカの民族的人格特性についてアメリカ軍兵士の評価と沖縄人の評価は0.47の偏差積法による相関を示し，沖縄人に対するアメリカ軍兵士の見方と沖縄人の見方の間の関係（$\gamma=0.44$）とほぼ等しい。即ち民族相互間の人格特性に関する意見は民族の自己観察の結果と幾らかの関係はあるにしても相当に考え方の相違があるといえる。

アメリカ人の人格特性について沖縄人の評価による特性順位とアメリカ軍兵士の評価による順位の差を調べた結果は次の通りである。

A　アメリカ人について米軍兵士と沖縄人の意見がほぼ一致したもの
（順位差が5以内）

	順位差	米軍兵士のつけた順位	沖縄人のつけた順位
無　口	0	39	39
疑い深い	0	28	28
幸福そう	1	1	2
社交的	1	2	3
冒険好き	1	10	11
感情にむらがない	2	17	19
短　気	3	26	23
卒　直	3	7	10
恥かしがり	3	37	40
神経質	4	32	36
おしゃべり	5	12	7

B　米軍兵士が沖縄人よりも高く評価したもの（順位差が10以上）

	順位差	米軍兵士のつけた順位	沖縄人のつけた順位
道徳的	27	6	33
勤勉的	25	3	8
礼儀正しい	24	8	32
思索的	16	18	34
同情的	16	11	27
正　直	15	5	20
柔順で服従的	13	24	37
注意深い	12	14	26

C　アメリカ人について米軍兵士が沖縄人よりも低く評価したもの（順位差10以上）

	順位差	米軍兵士のつけた順位	沖縄人のつけた順位
単　純	25	37	12
外向的	23	24	1
動作が粗野	20	34	14
利己的	19	34	15
興奮しやすい	19	27	8
威圧的	16	33	17
動作緩慢	15	40	25
対人関係で大胆	14	19	5
軽　卒	13	31	18
独立心	12	16	4
のんき	10	10	9

アメリカ人について米軍兵士と沖縄人の一致した意見から（Ⅰ）アメリカ人が幸福で（Ⅱ）恥かしがりではなく（Ⅲ）社交的であり（Ⅳ）おしやべりで（Ⅴ）意志表示が卒直で（Ⅵ）冒険好きであり（Ⅶ）神経質でないことが顕著である。

Table (10) はアメリカ人の各特性項目について沖縄人と米軍兵士の意見をx^2検定によつて有意差の有無を調べた結果である。

Table (10)

アメリカ人に対する米軍兵士の意見と沖縄人の意見（x^2検定結果）

特性	米軍兵士の評価	沖縄人の評価	危険率	特性	米軍兵士の評価	沖縄人の評価	危険率
	肯定度	肯定度	P		肯定的	肯定度	P
幸福そう	0.94	0.76	.05	理想主義	0.29	−0.11	.02
社交的	0.93	0.74	.05	辛抱強い	0.26	−0.11	.01
勤勉	0.87	−0.10	.01	衝動的	0.25	0.24	.01
協力的	0.85	0.37	.01	外向的	0.15	0.77	.01
正直	0.75	0.16	.01	柔順で服従的	0.15	−0.69	.01
道徳的	0.71	−0.27	.01	短気	0.12	0.09	.01
卒直	0.69	0.46	.02	興奮しやすい	0.06	0.55	.01
人情に厚い	0.67	0.08	.01	疑い深い	0	−0.11	.01
礼儀正しい	0.67	−0.12	.01	用心深い	−0.03	0.15	.20×
冒険好き	0.63	0.45	.30×	頑固	−0.03	−0.38	.05
同情的	0.60	−0.09	.01	軽卒	−0.18	0.22	.01
おしやべり	0.57	0.59	.70×	神経質	−0.31	−0.61	.05
現実的	0.51	0.63	.01	威圧的	−0.34	0.23	.01
注意深い	0.50	−0.07		利己的	−0.40	0.25	.01
敏感	0.46	0.14	.05	動作が粗野	−0.40	0.34	.01
独立心	0.41	0.71	.01	消極的で引込み思案	−0.41	−0.83	.01
感謝にむらがない	0.35	0.18	.70×	単純	−0.54	0.40	.01
思索的	0.34	−0.28	.01	恥かしがり	−0.54	−0.88	.01
対人関係大胆	0.30	0.70	.01	無口	−0.56	−0.85	.01
のんき	0.30	0.51	.20×	動作緩慢	−0.61	0.06	.01

（×印は両者間に有意の差を認め得ないもの）

(4) 民族的人格特性の好ましさ (desirability) の問題

質問紙にとり上げられた，40種の特性項目の中には15種の比較好ましい特性と15種の好ましくない特性が含まれて居り，他の10種はその何れとも決められないものであつた。(特性の好ましさは心理系の教授職員の評定によつた。）好ましい特性として挙げられたものは「勤勉」「感情にむらがない」「同情的」「幸福」「社交的」「人情に厚い」「礼儀正しい」「正直」「思索的」「忍耐強い」「注意深い」「卒直」「協力的」「独立心が強い」「道徳的」等である。

好ましくない特性としては「柔順で服従的」「興奮しやすい」「利己的」「動作が緩慢」「疑い深い」「神経質」「消極的で引込み思案」「軽卒」「動作が粗野」「恥かしがり」「頑固」「短気」「単純」「衝動的」「威圧的」が含まれている。

アメリカ人及び沖縄人の民族的人格としての好ましさの度合を相互に比較検討するために，自己評価と他民族による評価結果から得られた各特性についての背定度 $\left(\frac{nA-nC}{N-n?}\right)$ を標準偏差値に換算して，好ましい諸特性の平均値及び好ましくない諸特性の平均値を求めた。

好ましい特性の平均標準偏差値は Table (11) の通りである。

Table (11)

好ましい特性の平均標準偏差値

評定者＼対象	沖縄人	アメリカ人
沖縄人	47.50	51.36
米軍兵士	57.24	59.04

アメリカ人は自己についても好ましい人格を認める傾向が強いが，とくに自民族についての好ましさの意識は非常に強い。沖縄人は一般に好ましい人格を認める傾向が弱く，自民族についてはとくに低く評価している。好ましくない人格特性の平均標準偏差値（Table (12)）及び相対的特性の好ましさ（Table (13)）と関連的に考慮すれば尚更これらの傾向が明らかになる。

Table (12)

好ましくない特性の平均標準偏差値

評定者＼対象	沖縄人	アメリカ人
沖縄人	56.24	46.19
米軍兵士	44.30	40.53

Tanle (13)

民族特性の好ましさ
（好ましい特性平均ー好ましくない平均）

評定者＼対象	沖縄人	アメリカ人
沖縄人	− 8.74	＋ 5.17
米軍兵士	＋12.94	＋18.51

沖縄人のみが自民族の人格特性好ましくないと考えているだけで，アメリカ軍兵士の沖縄人観，沖縄人のアメリカ人観，アメリカ軍兵士の自民族観では全べて比較的に好ましい人格が考えられているのである。

米軍兵士の自民族に対する考え方は極めて積極的で，沖縄人の否定的な考え方と対照的である。米軍兵士の，アメリカ人観ではその特性肯定順位の第１位から第11位までをとれば第10位がどちらとも決められない「冒険好き」であつたことを除いて他はすべて好ましい特性であり，又最下位の第40位から第23位までの間では「外向性」と用心深い」の二つを除き，他は悉く好ましくない特性であつたことは，米軍兵士の民族的自信や優等感を如実に表わしているものとして興味深い。（Table (9) 参照）

沖縄人の自我意識は，アメリカ人の自我意識と全く対蹠的であり，肯定順位の第1位から第6位までの間では第5位の「無口」が中立的特性であることを除いて，他はすべて好ましくない特性であり，更に第1位から第13位までの間をとれば第7位，「同情的」第8位「辛抱強い」第9位「人情に厚い」第11位「正直」及び前述の第5位「無口」以外の他のすべては好ましくない特性である。反対に肯定度の低いものを第40位から第38位までの間では第38位の「威圧的」のみが好ましくない特性で中立的なもの5種を除けば他の7種は好ましい特性であつた。（Table (7) 参照）故に沖縄人は自民族に対して極めて批判的且つ悲観的であり，民族的誇りに乏しく，又アメリカ人に対しても相当批判的であるが，その反面アメリカ軍兵士は自民族について強い信頼感と誇りを持ち，又他民族である沖縄人に対しても楽観的で且つ充分な信頼を寄せているものと思われる。

勿論，この報告の始めに述べたように琉大学生は沖縄人一般の標本としては代表度が薄く，又同様な欠陥がアメリカ人の標本としての米軍兵士についても指摘されよう。

(5) 沖縄人及びアメリカ人相互間に見られる自他間の差異意識，ここで自他間の差異意識と呼ぶのは，アメリカ人が意識するアメリカ人と沖縄人の間の人格的差異（アメリカ人の考えではアメリカ人と沖縄人とは類似ししているか，又はかけはなれているか）と沖縄人が意識する沖縄人－アメリカ人間の人格特性の差異のことである。これは部分的ではあるが，或る程度民族成員の Out-in group の感情を反映するものであり，自他間の差異意識の高い民族は自集団の独特性（unigueness)の感じのために排他的になり，異民族とのアシミレーション assimilation に対する誘意性はネガティヴになるが差異意識の低い集団に対して開放的で容易に交渉をもつことができる。

アメリカ人は自民族を沖縄人に較べてより好ましい，優れた民族と見て居り，沖縄人はその反対に自民族をアメリカ人よりも好ましくない，劣つたものとして考えていることは已に明らかであるが，アメリカ軍兵士のアメリカ人の人格特性に対する考え方と沖縄人に対する考え方との間には偏差積法によつて $\gamma = +0.44$ の積極的相関が見られた。併しながら沖縄人の場合には沖縄人に対する考え方とアメリカ人に対する考え方との間には $\gamma = -0.62$ の可成り強い逆相関が見られるのである。調査方法の欠陥による影響も一応考慮すべきであるが，それにしても尚 $+0.44$ 対 -0.62 の比較は大きな差として考えざるを得ない。

沖縄人の意識するアメリカ人－沖縄人間に差異の著しい特性は沖縄人の「恥かしがり」「消極的で引込思案」「柔順で服従的」「無口」「頑固」「忍耐強い」「同情的」「神経質」「人情に厚い」「動作が緩慢」「正直」「勤勉」「道徳的」な諸点と，アメリカ人の「外向的」「幸福」「対人関係大胆」「社交的」「冒険好き」「独立心」「おしやべり」「威圧的」「卒直」「協力的」「現実的」「興奮しやすい」「軽卒」の諸点である。（Table (14) 参照）

Table (14)

沖縄人の自他間差異意識

特性	順位差	沖縄人に与えた順位	アメリカ人に与えた順位	特性	順位差	沖縄人に与えた順位	アメリカ人に与えた順位
恥しがり	38	2	40	動作が粗野	3	11	14
消極的で引込思案	37	1	38	感情にむらがない	3	22	19
柔順で服従的	34	3	37	のんき	5	14	9
無口	34	5	39	衝動的	5	21	16
頑固	29	6	35	理想主義	5	35	30
忍耐強い	22	8	30	注意深い	5	31	26
同情的	20	7	27	敏感	5	27	22
神経質	19	17	36	軽卒	6	24	18
人情に厚い	15	9	24	興奮しやすい	8	16	8
動作緩慢	12	13	25	現実的	9	15	6
正直	9	11	20	協力的	15	28	13
勤勉	9	19	28	卒直	16	26	10
道徳的	8	25	33	威圧的	21	38	17
単純	8	4	12	おしやべり	26	33	7
疑い深い	6	22	28	独立心	28	32	4
利己的	5	10	15	冒険好き	29	40	11
思索的	4	30	34	社交的	31	34	3
礼儀正しい	4	28	32	大胆	31	36	5
短気	4	19	23	外向的	36	37	1
用心深い	4	17	21	幸福そう	37	39	2

アメリカ軍兵士が自他間に大きな差異を意識する特性はアメリカ人自身の「冒険好き」「道徳的」「卒直」「人情に厚い」「短気」「大胆」「外向的」「衝動的」「理想主義的」「現実的」な諸点と，沖縄人の「動作緩慢」「忍耐強い」「無口」「柔順で服従的」「消極的で引込み思案」「単純」「恥かしがり」「感情にむらがない」等の諸点である。(Table (15))

Table (15)

アメリカ人の自他間差異意識

特性	順位差	アメリカ人に与えた順位	沖縄人に与えた順位	特性	順位差	アメリカ人に与えた順位	沖縄人に与えた順位
冒険好き	23	10	33	協力的	1	4	5
道徳的	22	6	28	幸福そう	1	1	2
卒直	19	7	26	頑固	1	29	28
人情に厚い	14	8	22	用心深い	1	29	28
短気	13	26	39	のんき	2	19	17
大胆	13	19	32	勤勉	2	3	1
外向的	11	24	35	疑い深い	3	28	25
衝動的	11	23	34	注意深い	3	14	11
理想主義	10	21	31	軽卒	4	31	27
現実的	10	13	23	礼儀正しい	5	8	3
威圧的	7	33	40	興奮しやすい	6	27	21
おしやべり	7	12	19	敏感	6	15	9
同情的	6	11	17	感情にむらがない	11	17	6
思索的	5	18	23	恥かしがり	12	37	15
社交的	5	2	7	単純	12	37	15
動作が粗野	4	34	38	消極的で引込思案	13	36	13
神経質	4	32	36	柔順で服従的	14	24	10
独立心	4	16	20	無口	15	39	14
正直	3	5	8	忍耐強い	18	22	4
利己的	2	34	36	動作緩慢	28	40	12

概して両者の自他民族特性の相対的比較は一致した意見が多く（25種特性）相互間の意見の矛盾対立は15種の特性について存在する。極端な意見の対立を示したものは両者ともに，自民族がより「道徳的」であり，「人情に厚く」「同情的」であり，又「神経質」で「短気」だと考えていることである。

以上の諸点からアメリカ人及び沖縄人の自他間の差異意識は（Ⅰ）沖縄人に極めて大きく，沖縄人の自閉的態度及びアメリカ人の開放的接近的態度を示唆しているが，その反面（Ⅱ）自他の相対的特性比較では内容的にほぼ一致した民族特性観をもつており，（Ⅲ）「道徳的」「人情深い」等の特性では双方ともに明らかな自民族中心性（ethnocentrism）の傾向を示している。

(6) 沖縄人（琉大学生）の本テストに認められた性差

沖縄人のアメリカ人に対する意見の質問紙には男子学生67名，女子学生36名が含まれ，沖縄人に対する意見では男子学生75名，女子学生25名が含まれていた。x^2検定により両者に有意の差が認められたのは，沖縄人に対する意見で3項目でアメリカ人に対する意見では7項目であつたが，そのうちとくに顕著な差の認められたのはわずかである。

尚，危険率は5パーセント以下とした Table (16) で有意の差を認め得た特性が示されている。
一般に男女間の性差は極く僅少であり　とくに，アメリカ人の礼儀正しさについては女子の方が積極的に肯定している。

Table (16)
沖縄人の意見の男女の差

対象	特　　性	男子肯定度	女子肯定度	危険率
沖縄人に対して	利己的	0.41	0.33	.01
	動作緩慢	0.24	0.72	.05
	忍耐強い	0.44	0.52	.01
	注意深い	−0.03	−0.14	.01
アメリカ人に対して	感情にむらがない	0.22	0.11	.02
	冒険好き	0.51	0.33	.01
	頑　固	−0.33	−0.47	.05
	幸福そう	0.80	0.69	.01
	礼儀正しい	−0.28	0.17	.02
	短　気	0.12	0.03	.01
	威圧的	0.30	0.09	.05

Ⅲ　結　　論

1　沖縄人の自民族に対する評価は極めて低い。

2　アメリカ人と沖縄人相互の民族的人格特性観はほぼ一致している。

3　沖縄人の特性は

（Ⅰ）恥かしがり　（Ⅱ）無口　（Ⅲ）消極的で引込み思案であるが　（Ⅳ）忍耐強く　（Ⅴ）勤勉で　（Ⅵ）柔順であり　（Ⅶ）人に対して威圧的ではなく　（Ⅷ）理想主義的でもなく　（Ⅸ）外向的ではない

これに対してアメリカ人は

（Ⅰ）幸福そうで　（Ⅱ）社交的且つ協力的であり　（Ⅲ）おしやべりであるが極めて卒直に意見述べ　（Ⅳ）独立的で　（Ⅴ）冒険好きであるが又同時に　（Ⅵ）現実的でもある。従つて彼等は　（Ⅶ）恥かしがらず又消極的でもなく　（Ⅷ）柔順ではないが　（Ⅸ）頑固でないと云える。

概して沖縄人は内向的特徴を具えて居り，反対に外向的な特徴を持つつアメリカ人と極めて対照的な民族的人格をもつている。それは他民族を侮つているために生じた優越感ではなく他民族に対しても又自民族に対して共通に楽観的な観察を行つているものと思われる。

6　沖縄人は自民族に対してのみならず，他民族に対しても極めて批判的である。これは用いられた標本が青年期にあり，且大学教育を受けつつあるためにもよるだろう。

7　民族の自我意識は必ずしも他民族の評価とは一致しない。

8　沖縄人の自他民族間の差異意識はアメリカ人の意識している自他民族間の差異に較べて極めて大きい。

附　　記

この調査の実施に当つて多くの方々が御援助下さつたことに対して深く感謝致します，与那嶺教授を始め東江（東）東江（平）安谷屋各講師には貴重な時間をさいて，テストの管理に当つて頂いたり，或いは専問的助言をわずらわしたり致しました。又米軍兵士に対して調査を行うことについて多くの困難が予想されましたが，ミシガン　ミツシヨン　のエリオツト博士が数週間にわたつて部隊との接衝やテストの管理に当つて下さいましたので全べて順調にはかどりました統計作業には多数の教育学部学生の方々の協力をお願いしましたとくに比嘉とみ子，仲間輝久雄，金城昭七，金城隆徳，安村栄子，平良江美子，寄川明子，安谷早苗の諸氏には長期に亘つて地味な仕事をして頂きました。七月上旬に渡米を控えて居りましたので不完全な整理とは知りつつ多くの欠点や問題を残したまま本研究を終つたことを残念に思います。

赤　嶺　1956. 6. 22